

慶成高等学校

令和8年度一般入学試験問題

国語

注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから10ページまであります。
- 3 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 4 解答用紙の※印の欄には、何も記入しないでください。
- 5 句読点は全て字数として数えてください。
- 6 試験時間は50分間です。
- 7 試験終了の合図で筆記用具を置き、解答用紙を裏返しにして、机の上に置いてください。
- 8 解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰ってください。

一 次の【文章】を読んで後の各問に答えなさい。

【文章】

本来、映像作品は映像で語るものだから、役者が悲しそうな顔をしていれば悲しいことが伝わるし、無言でじっと汗をかいていれば絶体絶命であることがわかる。①モノログで、「悲しい」とか「どうしよう」などと口にする必要はない。

しかし、昨今の（特に日本の大衆向け）映像作品には、いま自分が嬉しいのか、悲しいのか、自分がどのような状況に置かれているのかを、一言一句丁寧に、セリフで説明してしまうものが多い。言葉なしの映像だけを観て読み解く必要がないのだ。

TVアニメシリーズ『鬼滅の刃』（第一期）の第1話。主人公の竈門炭治郎^{かまど たんじろう}は、雪の中を走りながら「息が苦しい、凍てついた空気で肺が痛い」と言い、雪深い中で崖から落下すると「助かった、雪で」と言う。

しかし、そのセリフは必要だろうか。丁寧に作画されたアニメーション表現と声優による息遣いの芝居によって、そんな状況は説明されなくてもわかる。

このセリフが原作どおりであることは承知だ。しかし、モノクロの静止画である漫画とカラーで動くアニメーションでは、情報量が格段に異なる。漫画の場合、一枚絵では伝えきれない情報をモノログで補足するのはいいとしても、アニメーションになった時点で、その補足情報は必要不可欠と言えない。

『鬼滅の刃』に限らず、実写映画でも地上波ドラマでも、そういう作品がとにかく増えた。そういう作品ばかり観て育った人たち、あるいはそういう作品に慣れた人たちが、②「セリフのないシーンは、飛ばしても支障ない」「字幕さえ追えば、状況は把握できる」という発想になるのは、当然だ。

X、逆なのかもしれない。製作側の親切心で、長年にわたって説明過多の「わかりやすい」作品が世にあふれた結果、視聴者のリテラシーが低位で安定してしまったのか。

四半世紀にわたって屈指の「わかりにくさ」を誇り、それがまた作品の深みにもなっていた『新世紀エヴァンゲリオン』の総監督・庵野秀明^{あんの ひであき}は、『シン・エヴァンゲリオン劇場版』制作を追うドキュメンタリー取材を承諾した理由をこう語った。

「おもしろいですよっていうのをある程度出さないと、うまくいかないだろうなっていう時代かかって。謎に包まれたものを喜ぶ人が少なくなってきたる」

倍速視聴したり、10秒飛ばししたりする人たちは、物語を追いかけるのに必要な情報は、必ずセリフやナレーションで与えられるものだと信じきつ

ている、ように見える。

しかし、映像表現とは、本来そうではないはずだ。

誰もいない部屋に、氷が溶けきっていない飲みかけのウイスキーグラスがあれば、それは「ウイスキーを飲んでいた人間が立ち去ってから、まだあまり時間が経っていない」ことを表している。妻のいる自宅に夫が帰ってきて、「ただいま」「おかえり」が交わされなければ、その夫婦がうまくいっていないらしいことが伝わる。ある小道具が必要以上に長く映されていれば、その小道具は物語上なんらかの意味を担っている。暗示というやつだ。

教訓や風刺を物語の形式で伝える寓話、皮肉やあてこすりなどにも、直接的な説明は与えられない。ある主張を別の表現に置き換えているからだ。これを仮託と呼ぶ。

画面に映っている美しい自然や人の営みそのものを「ただ堪能する」のも、映像作品の醍醐味だ。ドイツ・ネーランドでは、乗り物に乗っていないくても、パーク内にただいだけ楽しんで。あるいは絵画や写真鑑賞のように、描画・撮影された対象物の美しい配置・構図・色合いをじっくり眺め、それらがどんな主題の比喩になっているかに思考をめぐらせる。

しかし、10秒飛ばしや倍速視聴では、^③それらを汲み取りきれない。アトラクションからアトラクションの移動時に **ア** 国を堪能したとは言えない。 **イ** で美術館内を回るのは、芸術鑑賞ではない。

(稲田豊史「映画を早送りで観る人たち」による。一部改変)

問一 本文中の ^①モノローグ の本文中での意味として最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書きなさい。

- 1 序文。
- 2 結末。
- 3 会話。
- 4 独白。

問二 次の の中は、本文中の「セリフ」のない発想になる について説明したものである。 に入る内容を二十五字以上、三十字以内で考えて書きなさい。ただし、感情 という語句を必ず使うこと。

映像作品が

ため、それに慣れた人たちは、「セリフ」のないところには必要な情報がないと考えるということ。

問三 本文中の **X** に入る語句として最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書きなさい。

- 1 もしくは 2 それでも 3 いわゆる 4 たしかに

問四 本文中のそれら^③にあたる語句を本文中から三つ、それぞれ二字で探し、そのまま抜き出して書きなさい。

問五 本文中の **A** ・ **I** に入る語句として最も適当なものを、次の各1～4から一つづつ選び、番号を書きなさい。

- ア：1 説明 2 寄り道 3 目隠し 4 撮影
イ：1 徒歩 2 自転車 3 大人数 4 自分一人

二

次は、【文章1】とそれに関する【文章2】である。

(1) 次の【文章1】を読んで、後の各問に答えなさい。

【文章1】 次の文章は、トカイファームで働く博正が、大阪から来た久美子に乗馬を勧める場面である。

「この馬、もう二十六歳なんだ。花子って名前で、凄く温和^{おとな}しいんだ。乗ってみないか。絶対あばれたりしないから」

「私、スカートやから、いや」

「鞍^{くら}、持って来るよ。またがなくなっても、横^{よこすわ}坐りしてりゃいいから」

「ほんとにあばれたりしない?」

「しないよ。ときどき来る子供連れのお客さんのために飼ってある馬なんだ」

馬房から鞍をかついでくると、博正は齒の半分が抜け落ちた花子の鼻面を撫^なで、久美子が傍^{そば}に寄って来るのを待った。彼はあぶみをつかみ、腰を折って、自分の背を台にして馬に乗るよう促した。

「目エつむってるから」

「ほんとに? 私がいいって言うまでよ」

「うん。つむったよ」

久美子は靴^{くつ}を脱ぎ柵に足をかけて博正の背中に移った。

「靴、履いたままでいいのに」

博正は言った。

「なんで靴を脱いだことが判るの？ 目をあけてるでしよう」

「あけてないって。そんなの見なくったって判るだろう？ 背中が痛くねエもん」

本当は、博正は目をあけていたのである。下を向いていても、目をあけているだけで心がときめいた。久美子は鞍に横坐りしたが、

「駄目、落ちそう」

と叫んだ。

「鞍をしっかりつかんでたら大丈夫だよ」

花子の顔につけた頭絡（とうらく）を握り、博正が二、三歩行ったところで、久美子は、ちょっと待って、と制した。

「目をつむって」

博正は言われたとおりにした。

「私、やっぱりまたがるわ。だから、絶対、私のほうを見たらいやよ」

恐る恐る体を動かしている様子が伝わった。

「あぶみを短かくしようか？」

「いらない」

「またがった？」

「うん。またがった。凄く寒い」

そりゃあ寒いだろうなア。スカートを相当まくりあげなきゃ、馬の背にまたがれねエもんなア。博正は思わずゆるんでしまう自分の顔をひきしめた。花子の顔と自分の顔が殆ど（ほとん）ひつついてしまうほどに近づけ、彼は柵に沿ってゆっくり歩いた。

「馬って高いのねエ」

久美子が言った。

「初めて乗った人はみんなそう言うよ」

花子が首を廻して、あぶみにかけて久美子の足の先を噛んだ。それで、博正の目の前に、久美子の姿が映し出された。

「あかん。噛んだらいやや。こつち見たらあかん」

久美子は必死な声で馬に言い、博正に言った。

「いらー」

博正は頭絡をしゃくつて花子を前方に向かせた。へへん、見ちゃった。あんなにスカートをまくりあげてりゃあ丸見えじゃねエか。博正は久美子に頭を三回叩かれた。叩かれながら、彼は久美子のすべてを許してやろうと思った。我儘も高慢さも、お天気屋なところも、俺を石か木みたいに扱ったことも全部帳消しだ。だって、俺、見ちゃったもんな。

「いま、わざとやったでしょう?」

「そんなことしないよ。久美子さんが、あぶみの角で花子の腹をこすったんだよ。だから、こいつ痛がって……」

「目をつむってるって約束したのに」

「だって、そんなの無理だよ。目エつむってたら歩けないじゃねエか」

丘を下り、シベチャリ川の近くまで来た。花子の蹄の音が静けさをおおった。彼は馬を停め、セーターを脱ぐと、前方を向いたまま、それを久美子に差し出した。

「²これで風をふせいだら?」

その意味がすぐに判ったらしく、久美子はセーターを受け取って、¹また博正の頭を叩いた。人の頭、木魚みたいに思っただけでやがる。それでも博正はいつこうに腹が立たなかった。³そうされるたびに、久美子への愛しさがつのった。

「俺、三十年たったら、きつとこの牧場を日本で有数の牧場にしてみせるよ。無駄遣いはいつさいやめて、金をためて、まずいい肌馬を揃えるんだ。それからいい種をつける。十年間、それに専念して、次の十年で土地を拓げるよ。そのあいだに、ちゃんとしたトレーニングコースも作るんだ。一周八百メートルくらいののを。そしたら、もう十年たったら、吉永ファームとまではいかななくても、このトカイファームは一流の牧場として評価されるようになってる。資金とか農地法とか、それ以外にも想像も出来ないような難しい問題が次から次へと出て来るだろうけど、俺は絶対やるんだ」

日は暮れてしまい、家の灯と、花子の白い鼻面以外何も見えなかった。

「夢なんか持つな。夢を持つから苦しむんだって、何かの映画のセリフにあったわ」

と久美子が言った。

「じゃあ、夢も目標も持ってねエ男と結婚するの？ 金だけはあるってエ男と」

その自分の言葉が、久美子を驚かせたことに、博正は気づいていなかった。彼は何気なく言ったのだった。けれども、それは凶らずも博正の心を、如実に久美子に伝えていたのである。

④「夢と目標とは違うわ」

「俺のは夢じゃねエ。目標だよ」

それきり博正と久美子は口を閉ざし、浮かび出た星を見あげていた。風はますます冷たくなった。

(宮本 輝『優駿』による。一部変更)

(注)頭絡：馬の頭部に取り付ける馬具。

木魚：仏教の道具で、僧侶がお経を唱える際に叩くもの。

肌馬：子馬を産むために牧場に飼育されている牝馬のこと。

問一 次の□の中は、久美子が本文中の①また博正の頭を叩いた。理由についてまとめたものである。□アに入る内容を、本文中から

十二字で探し、そのまま抜き出して書きなさい。また、□イに入る内容を、五字でまとめて書きなさい。

久美子は、□ア ている現在の自分の格好が意識されて □イ 気持ちが起こり、それをごまかしたかったから。

問二 本文中の久美子を驚かせた②について、なぜ久美子は驚いたのか、その理由を二十字以上、二十五字以内でまとめて書きなさい。

問三 次の□の中は、本文中の③博正の心 について説明したものである。□A □D に入る内容を、□A は漢字一字で

書き、□D は二十一字以上、二十五字以内でまとめて書きなさい。また、□B □C に入る内容を本文中から探し、□B

は五字、□C は三字でそれぞれそのまま抜き出して書きなさい。

「博正の心」とは、久美子に対する □A 意のことであり、本文中の □B □C という心理描写や、風を防ぐために

□D 行為からも知ることができる。

問四 本文中の「夢と目標とは違うわ」について、この時の久美子の心情を説明したものととして最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書きなさい。

- 1 博正が「夢」と「目標」とをほぼ同じ意味で使っていたので、二つの言葉は全く違う意味だと、博正にわからせたいと思った。
 - 2 博正の発言は夢物語としか思われないので、どんなに具体的な内容でも、実現は不可能であると伝えたいと思った。
 - 3 博正に夢をできるだけ現実味のある目標といえるものに近づけていく努力をしてほしいと思った。
 - 4 夢を語る博正に気持ちが悪かったが、「夢と目標は違う」と言って、博正を意識した自分の気持ちをごまかそうと思った。
- 問五 本文中の傍線部1～4の指示語の中で連体詞を一つ選び、番号で書きなさい。

(2) 次の【文章2】は【文章1】を読んで馬に興味を持った静内さんが調べた故事成語についてまとめた文章である。これを読んで、次の各問に答えよ。

【文章2】

昔、国境のとりでの近くに住む老人の馬が、遠くの国へ逃亡してしまった。人々が老人に慰めの言葉を述べると「これがなにかの幸せになるかもしれない」と平気な様子であった。すると、逃げた馬が遠くの国から良い馬を多数ひきつけて帰ってきた。人々がお祝いを述べると老人は「これが不幸の元になるかもしれない」と心配な様子をただよわせていた。

その後、老人の息子がこの馬に乗り落馬してモモの骨を折る怪我をした。人々がまた老人に慰めを述べると「これがまた幸福の元になるかもしれない」と言った。しばらくすると、戦争がおこって多くの若者たちが召集されてしまった。しかし、老人の息子は怪我人であったため、兵役を免除されて無事であった。

人間の不幸や幸福は測り知ることができない。

「淮南子」(人間訓)

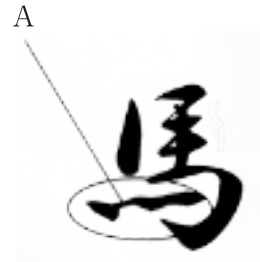
問一 【文章2】に述べる とあるが、これを人々が老人に対して敬意をいっている形にすると、どのような敬語になるか、書きなさい。

問二 【文章2】の 召集 の漢字の読みを、平仮名で書きなさい。

問三 【文章2】の ただよわせ について、静内さんは漢字を使って書き直すことにした。「ただよわせ」に適切な漢字をあて、楷書で書きなさい。なお、送り仮名は平仮名で正しく送ること。

問四 「追跡」の対義語を【文章2】の中から探し、そのまま抜き出して書きなさい。

問五 【文章2】の中で用いられている「馬」の文字について、静内さんはこれを行書で書いてみた。行書で書く場合、Aの部分に表れている行書の特徴と同じような特徴を持つ漢字として適当なものを、1～4から一つ選び、番号を書きなさい。



- 1 羊
- 2 雲
- 3 牛
- 4 旅

問六 【文章2】の波線部と同じような意味になる故事成語を、次の1～4から一つ選び、番号を書きなさい。

- 1 塞翁が馬
- 2 馬耳東風
- 3 馬子にも衣装
- 4 馬の耳に念仏

三

次の文章を読んで、後の各問に答えなさい。

今は昔、唐に、孔子、道を行きたまふに、八つばかりなる童あひぬ。孔子に問ひ申すやう、「日の入る所と洛陽と、いづれか遠き」と。孔子 ① いらへたまふやう、「日の入る所は遠し。洛陽は近し」。童の申すやう、「日の出で入る所は見ゆ。洛陽はまだ見ず。されば ② 日の出づる所は近し。洛陽は遠しと思ふ」と申しければ、孔子、かしこき童なりと ③ 感じたまひける。 ④

孔子には、かく物問ひかくる人もなきに、かく問ひけるは、ただものにはあらぬなりけりとぞ人いひける。

〔宇治拾遺物語〕による。一部改変

(注) 洛陽：中国の河南省にある古都。

問一 本文中の たまふやう を現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書きなさい。

問二 本文中の会話文に「」のついていない部分がある。その部分を本文中から探し、初めと終わりの三字をそのまま抜き出して書きなさい。

問三 本文中に ① いらへ とあるが、その意味として最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書きなさい。

- 1 聞き
- 2 笑い
- 3 考え
- 4 答え

問四 本文中に ② 日の出づる所は近し。洛陽は遠し とあるが、童がこのように考えた理由を三十字以内で考えて書きなさい。

問五 本文中の ③ かしこき について、次の問に答えなさい。

(1) 孔子が「かしこき」と考えた理由として最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書きなさい。

- 1 孔子よりも正確な地理の知識を持っていたから。
- 2 自身の経験に基づいて論理的な意見を述べたから。

- 3 相手の意見を聞く前に推測して先に反論したから。
- 4 孔子の考えを素直に受け入れる謙虚さがあったから。

(2) 本文中で「かしこき」と同義で用いられている語句を本文中から九字で探し、そのまま抜き出して書きなさい。

四

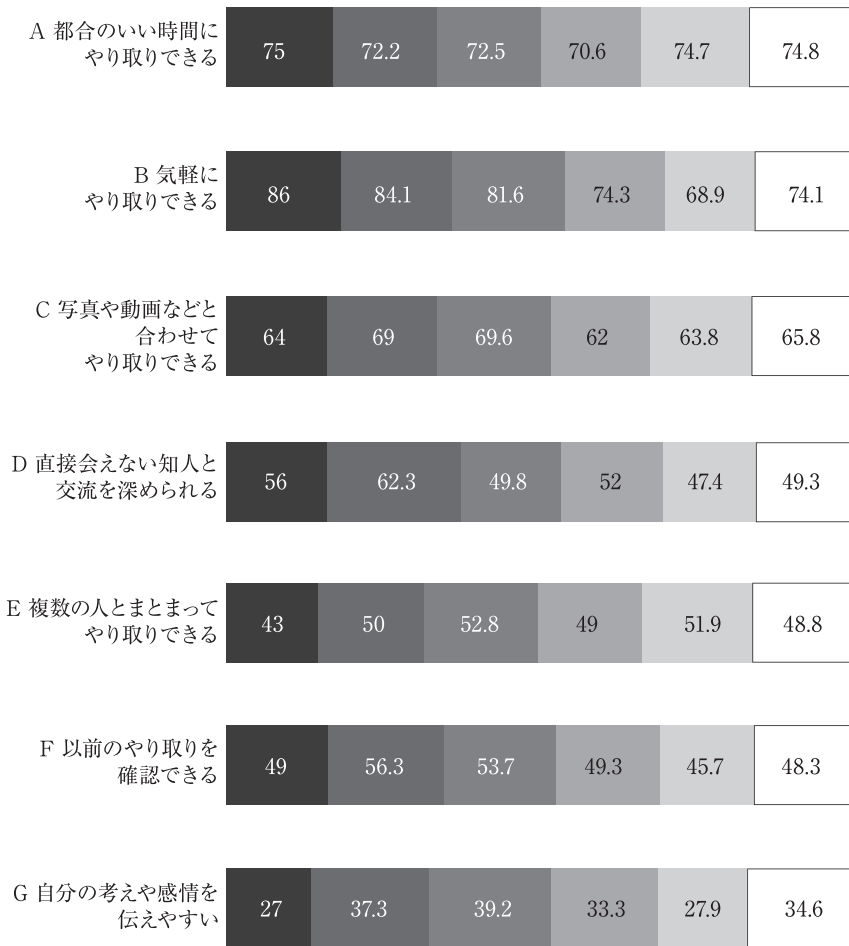
京子さんの学級では「仲間内や一対一での、SNSのメッセージ送信等で感じる利点」について調べました。このアンケートの結果である【資料】を読んで、後の条件1から条件5に従い、作文しなさい。

条件1 文章は、二段落構成とし、七行以上、九行以内で書くこと。

【資料】

仲間内や一対一での、SNSのメッセージ送信等で感じる利点

■16～19歳 ■20代 ■30代 ■40代 ■50代 □全体
※数字はパーセント(%)



(「令和6年度 国語に関する世論調査」)(文化庁)

(https://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/pdf/94274201_02.pdf)を加工して作成

条件2 第一段落には、【資料】A～Gの項目から一つ選び、選んだ項目の全体といずれかの年代の回答を比較してわかることと、それについてあなたが考えたことを書くこと。なお、項目はA～Gの記号で示すこと。

条件3 第二段落には、第一段落を踏まえ、「仲間内や一対一での、SNSのメッセージ送信等で感じる利点」についてのあなたの考えを、自分の知識や経験と結び付けて書くこと。

条件4 題名と氏名は書かず、原稿用紙の正しい使い方に従って書くこと。

条件5 グラフ等の数値を原稿用紙に書く場合は、左の例にならうこと。

例 45.3%

16～19歳